アルゼンチンマツイカ 南西大西洋

Argentine Shortfin Squid, Illex argentinus



管理・関係機関

南大西洋漁業委員会(SAFC)

最近の動き

我が国いか釣り漁船による本種の操業は、2007年からの南西大西洋からの完全撤退により、2014年漁期もなかった。

生物学的特性

■体長・体重:外套長 25 cm、体重 480 g 程度

■寿 命:1歳

■成熟開始年齢:約8~12か月

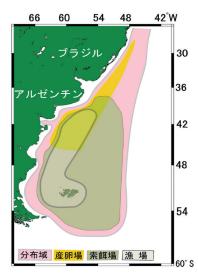
■産卵期・産卵場:1年中;主に秋から冬、アルゼンチン沖大陸棚斜面域

■索餌場:アルゼンチン沖大陸棚上

■食 性:中深層性魚類、オキアミ類、端脚類 ■捕食者:メルルーサ(幼イカ期)、海鳥など

利用・用途

するめ、塩辛、乾燥珍味、まぐろはえ縄の餌等



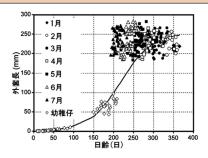
アルゼンチンマツイカの分布図

漁業の特徴

現在の主要な漁業国は、アルゼンチン、台湾、中国、韓国等である。1970年代に沿岸国のアルゼンチン等によって年間数千トンが漁獲されていたが、1980年代に入りポーランド、日本等の遠洋漁業国のトロール船による本格的な操業が開始された。1980年代の半ばに日本、台湾及び韓国のいか釣り漁船が操業を開始した。現在でもいか釣り漁船による漁獲がほとんどである。2007年以降、日本のいか釣り漁船は完全撤退している。本種の盛漁期は南半球の夏から秋(2~6月)で、主漁場にアルゼンチンEEZ及びフォークランドFICZ(暫定保護海域)内であるが、一部隣接する公海域にも形成され、季節とともに南北に移動する。

漁獲の動向

公海域も含めた総漁獲量は1980年代後半から増加し、 1987年以降 2003年までおおむね 40万~60万トン前 後で安定し、1997、1999、2000年には80万~100 万トン近くに達した。2004年には約17万トンに低下し たが、2006~2008年に70万~90万トン以上に急増し、 公海を除くアルゼンチン EEZ 及びフォークランド FICZ 内での漁獲量も30万トンを超えた。総漁獲量は2009 ~ 2011年に20万トン前後に再び減少したが、2011年 には増加傾向となって30万トンを超え、2014年には 100万トンを超えたと推定される。2014年はアルゼン チン EEZ・フォークランド FICZ 内漁獲量も 48.1 万トン に達した。沿岸国のアルゼンチンの漁獲量は 1990 年代 に増加し20万トン前後となった。2004年に約7万トン に減少したが、2006~2008年に20万トン以上に増加 し、2009年に再び7.3万トンに激減したが、2010年以 降は増加傾向にあり、2013年は19万トンであった。我 が国の漁獲量は、1990年代は約10万トンで安定してい たが、2001年以降減少し、2007年のいか釣り漁船撤退 以降ない。



夏季産卵群の雌の成長曲線 各点は生まれ月及び幼稚仔期(◇)を示す(Brunetti *et al.*1998a より)

資源状態

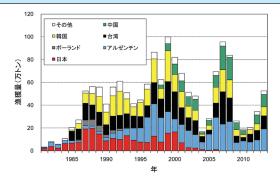
いか釣り漁船 CPUE、調査船調査により資源評価される。資源は 1994年から1996年にかけて低水準となったが、その後、回復に転じ、 1999年にピークに達した。しかし、翌2000年には再び急激に減少し、 2004年には枯渇の危機に瀕した。2006年から徐々に加入量が増加 を始め、再生産関係は 2007 年、2008 年ともに親イカ量及び翌年加 入量ともに高い水準域にあったが、前兆なしに 2009 年に一転して 急激に低下し、加入量が前年の13%まで落ち込んだ。2010年以降 は漁獲量が増加しており、資源は最高水準にある。2015年の漁獲量 は10月の時点で27.6万トンであり、過去20年間(1993~2014年) の平均漁獲量 25.5 万トンをすでに上回っていることから、2014 年 の資源水準は高位、資源の動向は増加と判断した。

管理方策

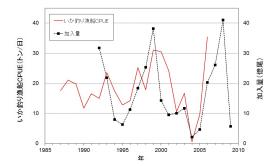
本資源の大部分はアルゼンチン EEZ 及び英国領フォークランド FICZ 海域内に分布し、管理上は便宜的に南緯44度線で区切って、南方 資源と北方資源に分けて異なる管理方策をとっている。北方資源は、 実質アルゼンチンのみが管理し、前年の漁獲実績による入漁隻数制 限と漁期制限(5月1日~8月31日まで)による努力量管理方策を 実施している。一方、南方資源は、SAFC に基づき英ア二国が共同で、 前年の漁獲実績による入漁隻数制限と解禁日(2月1日)制限によ る努力量管理のほかに、再生産管理を実施している。再生産管理とは、 本種が単年性(年魚)であり、世代が重複することがないことから、 ある年の資源はすべて前年の産卵親イカから生まれてくる再生産関 係がある程度成立すると仮定し、来漁期の資源に回す親を一定量確 保する施策である。相対逃避率 (目標値 40%) に加え、絶対逃避量 (4 万トン)を設定し、漁獲量を管理している。

資源評価のまとめ

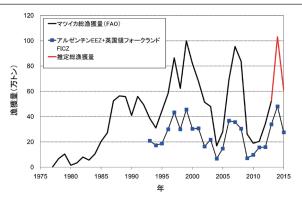
- ■いか釣り漁船 CPUE、調査船調査、漁獲動向により評価。
- 2014 年は、過去最高水準の漁獲であり、資源水準は過 去最高にせまる高位で増加傾向と判断。



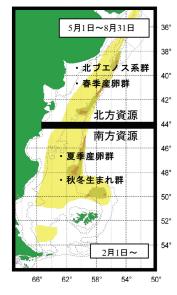
各国のアルゼンチンマツイカ漁獲量の変遷(1981 ~ 2013 年)(FAO 2015)



日本のいか釣船の CPUE (トン/日) の経年変化とアルゼンチン調査船 による秋冬生まれ群(南パタゴニア系群)の加入量(トン)の経年変化



アルゼンチン EEZ 及び英国領フォークランド FICZ 内での漁獲量と総漁獲量の変遷



本種の季節発生群(系群)と南緯 44 度を境とした資源分割管理

管理方策のまとめ

- ■南緯 44 度線で南方資源と北方資源に分けてそれぞれ
- ■南北両資源ともに努力量管理方策維持。入漁隻数の制 限、解禁日と禁漁期(終漁日)を設定。
- ■南方資源は、さらに、再生産管理として相対逃避率 40% 及び絶対逃避量 4 万トンを設定し、漁獲量を制限。

アルゼンチンマツイカ(南西大西洋)の 資源の現況(要約表)

資源水準	高 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 (最近の5年間)	19.0 万〜 52.6 万トン 平均:30.5 万トン (2009 〜 2013 年)
我が国の漁獲量 (最近の5年間)	0トン 平均:0トン (2009~2013年)
最新の資源評価年	-
次回の資源評価年	_